令和３年度　大分教育事務所　所長通信

2021「山ちゃん通信」No,68

2021, 7, 30
文責：山香 昭

Ｉ学期学校訪問から学んだこと①

【観点Ｉ】「育成を目指す資質・能力」の明確化

学校の教育目標と重点目標は、育成を目指す資質・能力が明確なものとなるように設定すること。
また、重点目標の達成に近付く妥当な根拠や理由を説明できる達成指標、重点的取組及び取組指標を設定すること。

「『芯の通った学校組織』推進プラン第３ステージ中間年に向けた取組方針について（依頼）」令和３年３月５日付 教委教改第Ｉ４４２号

「違うんだよなぁ」　ある校長先生から

「うちの学校は、学力調査結果は良い方で、活用力も決して悪くはない。でも、違うんだよなぁ。子ども達に『考える力』がついているとは思えません。教師の指示を待っているのです」と、ある校長先生がおっしゃっていました。

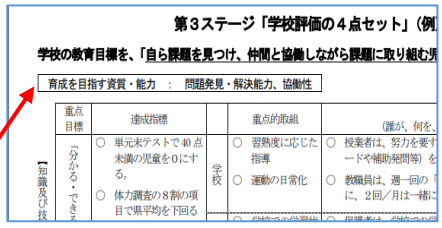
多くの学校では、学校評価の４点セットにある指標に基づき計画的に取り組まれ（手段）、それぞれの取組指標（目標）は達成しつつあります。

しかし、自校の目指す子ども像である「自ら課題をもつ」「未知の状況に対応できる」「責任をもって行動できる」等を掲げた「学校の教育目標」（目的）には近づいていないと感じる場合もあるようです。それは、子どもが「何ができるようになるか」という目的よりも、「何を教えるか」という手段の方に目が行き過ぎていることが考えられます。**【目的と手段の明確化】**

「目標」が多いですね　ある保護者の方から（現場にいた時の私の反省から）

「学年目標」「学級目標」「学習目標」「生徒会スローガン」さらに、教室には子ども達の「Ｉ学期に頑張ること」等、学校には沢山の目標があります。それは、学校を組織的に運営するために、教科部会、学年部会、分掌会議、委員会等の組織をつくり、それぞれが「重点目標」を掲げているからでしょう。しかしながら、各組織が「〇〇期間」「〇〇コンクール」を行うことが増え、子どもも教師も疲弊することもあります。

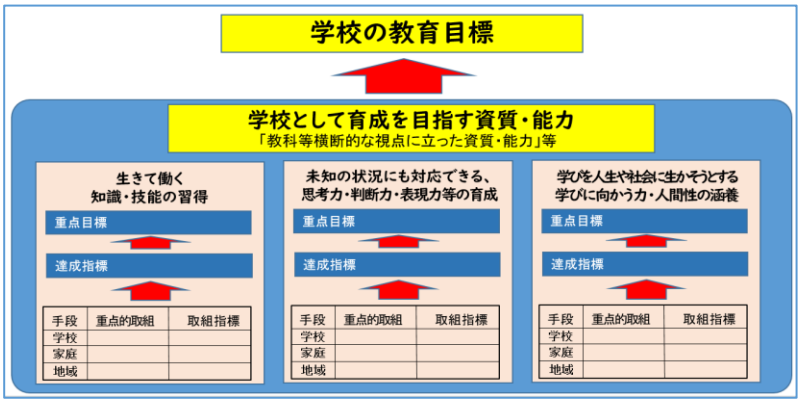
そこで、各組織が協働して、学校組織全体としての総合力を発揮するためには、教科等横断的な視点に立った「学校として育成を目指す資質・能力」を明確にする必要があります。**【総合力の発揮】**


第３ステージ「学校評価の４点セット」（例
学校の教育目標を、「自ら課題を見つけ、仲間と協働しながら課題に取り組む児
育成を目指す資質・能力　：　問題発見・解決能力、協働性

重点目標	達成指標		重点的取組	
【知識及び技	「分かる・できる	○ 単元末テストで40点未満の児童を0にする。 ○ 体力調査の8割の項目で県平均を下回る	学校	○ 習熟度に応じた指導 ○ 運動の日常化	○ 授業者は、努力を要す ードや補助発問等）を ○ 教職員は、週一回の「 に、2回／月は一緒に

「学校として育成を目指す資質・能力」の合意形成を

これらのように、【目的と手段の明確化】や【総合力の発揮】をすすめるためには、それぞれの取り組みが「学校の教育目標」の実現につながっているかを確認する必要があります。その際、「何を教えるか」よりも「何ができるようになるか」という「資質・能力の育成」の視点が重要になります。



そのためには、「資質・能力の３本柱」と共に、「学校の教育目標」の課題を踏まえた「学校として育成を目指す資質・能力」を、全員参画のもとで定めることが最重要です。

上記の校長先生の学校では「考える力」について、その意味や意義について職員と協議し、合意形成を図ったそうです。そして、「考える力」を育成するための、「課題」の質の向上や自己決定の場の設定、お互いの考えを出しあえる「つなぐ」集団づくりに取り組みだしたそうです。

「学校として育成を目指す資質・能力」の例としては、学習指導要領解説「総則」（小学校 pp.47-52 ,中学校 pp.48-53）に示されている「教科等横断的な視点に立った資質・能力」等が参考になります。また、家庭や地域と共有するためには、わかりやすい表現や、Ｉ～２つ程度に絞り込むことをおすすめします。

さらに、学校、家庭、地域が当事者意識をもつためには、「自立した学習者になるためには、どのような資質・能力が必要か」をテーマにした熟議を、それぞれの３者で行うことも有効でしょう。